

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1792200147		
法人名	株式会社サンウェルズ		
事業所名	太陽のプリズム徳光		
所在地	石川県白山市徳光町2665番地17		
自己評価作成日	2022年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル		
所在地	石川県金沢市千木町リ129番地		
訪問調査日	2022年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の畑や花壇には野菜作りをしていたご利用者様を中心に苗を一緒に植えるところから収穫まで役割をもって楽しんでいただいています。様々な野菜の収穫があり、季節の野菜をご利用様と一緒に味わったりしています。ドライブにも出かけ、外の景色を見ながら季節の変化を楽しんでいます。本来は地域の方々のボランティアや行事参加などの交流もよく行っておりますが、コロナウイルスが治まることなく、その影響でほとんど交流の場を持つことが出来ませんでした。「アットホームNo.1!質の高いサービスで、皆様のニーズ」の事業所理念のもとに利用者様が居心地の良い環境で生活していけるよう、利用者本位の考えでニーズに応えられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グローバルに拡大していく法人内で、これまでの管理者の思いを受け継ぎ、今年度から新しい管理者がホームを支えている。家の都合でやめざるえない職員以外に離職はなく、新人2名も加わり、安定した職員体制である。コロナ禍で外出支援がままならない現在の状況を踏まえ、少しでも楽しい時間、気分転換を図ってもらいたいとの思いから、外出支援に力を入れていきたいと管理者から抱負を聞き取れた。ホーム内では体操やレク、脳トレ、クイズを行い、何もしない日がないよう、職員の負担を考えながらも職員の同意を得、お楽しみの時間が作られていた。入居者のことを考え支援をしていく姿勢や強い思いが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフがいつも確認できるように事業所と各ユニットに理念を掲示している。 毎朝、朝礼にて理念を唱和し共有している。	「アットホームNo1!」質の高いサービスで、皆様のニーズの事業所理念のもと、スタッフが朝礼時理念唱和しており事業所内にも掲示してある。法人から配布される小冊子にも書かれており、職員の常に身の廻りにある理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため自粛を余儀なくされているが、本来は地域のお祭りや文化祭に参加している。 地域のボランティアや保育園とも交流を行っている。	コロナ禍であり、近年公民館の文化祭に出かけることはないが、今年は入居者と作った作品を提出した。少しずつ地域のボランティアや保育園との交流を再開しており、近所の人々が野菜を持って来てくれることもある。職員が近所に住んでいることから地域との付き合いは継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者様の生活の状況や活動を報告している。認知症に関する相談事を受けたり、情報提供をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、包括職員、行政職員、町会長、民生委員、公民館館長等の方々に参加いただき、運営状況や取り組み、事故や苦情の報告、対応等をさせて頂いている。より良いサービス向上に心がけている。	会議を行うことはまだしていないが、2か月に1回、ご家族、包括職員、行政職員、町会長、民生委員、公民館館長等にお便りを出し、入退居者状況、レクや行事の様子、問い合わせの内容について情報発信している。また支援時の状況やヒヤリハットへの取り組みなども事業所から積極的に伝えることで事業所への信頼関係が構築されていると話される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、気づいた点をご指摘の上、改善に努めている。 地域密着型サービス連絡会に参加した際には事業所の状況を報告し、運営や様々な事例についての相談を行っている。	行政への相談や行政からの入所相談などがあり、電話での対応に努めている。必要時は行政に顔を出すこともあるが、コロナ禍であり電話での対応が多くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ各フロア入り口ドアの鍵をかけているが、日中はかけないようにしている。 利用者一人ひとりの人柄や習慣を把握して、行動を抑制しないケアに取り組んでいる。 2ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を行い、振り返りや学びの場として話し合いをしている。	研修、ミーティングを行い、事例を通して身体拘束について話し合う機会を作り、自分たちの支援の振り返りを行っている。スピーチロックに関してはその場ですぐに声をかけ、本人の気づきを促している。また職員間での情報共有が必要なのは主任やホーム長まで話をあげ、ホーム全体の議案とし、話し合いの時間を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の参加を促している。また、ミーティングにて学習の場を設けて、特に不適切ケアをなくすことに重点を置いている。朝礼やミーティングで社会的ニュースや近隣施設情報などを例に挙げ、話し合いや自分達のケアを振り返りお互いの行動を見過ごさない環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・外の研修に参加し、制度の理解に励んでいる。しかし、全職員が同水準の知識と理解に達していないこともあり、今後は事業所内での研修の充実を図る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間を取らせていただき、ご家族様に解りやすい説明を心がけている。都度、ご家族様に疑問点等がないかお聞きし、理解・納得をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付や外部機関への相談窓口については、契約時に説明し玄関にも掲示している。また年1回のアンケートを実施し、ご意見箱の設置にて意見や要望をいただいている。また利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを多く設け、遠慮なくご意見を言える環境作りをし、施設運営に反映させている。	苦情受付についての説明は契約時に行っており、玄関には意見箱を設置している。アンケートも実施しており、家族の意見の把握に努めている。面会は15分程度できるように緩和し、本人の様子を家族に積極的に伝えている。家族からの問い合わせ時や請求書等送付時に入居者の様子が見えるよう、写真や文章をつけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、個人面談を実施し、スタッフの意見を汲み取る場を設けている。朝礼や申し送り時、ミーティング等に職員の意見発表ができる場を設けている。リーダーや管理者による面談を実施し意見が言える場も設けている。	管理者が変わり、体制は変わったが、これまでの副主任が管理者になったことで、職員間の意思疎通は良好であり、これまで同様、全体会議や個別面談で職員の意見を吸い上げ、仕事のやり方の改善など、進化変化していく法人の一翼としてより良い事業所を作り上げると現在の管理者から聞き取れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、管理者評価、部長評価と段階的な評価を行い、均等な全体評価となるような仕組みがある。業務内容の見直しや職員同士の声掛けをしながら残業ゼロを維持している。また資格手当に充実した環境にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	MCライセンス制度を実施している。正社員、パート問わず、全社員が学べる研修となっており、介護知識や介護技術の見直しを行っている。また、法人内必須研修実施等にてケアの向上に取り組もしている。法人費用負担による実務者研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会にて他法人同事業形態の職員と交流をさせていただいている。その他の勉強会や研修にも出来る限り参加させていただいており、意見交換や取り組み内容の報告などを行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆつくりと時間をかけ本人の気持ちに寄り添うことを心がけている。昔や最近の出来事に想いを共有させていただき、現在の想いや今後への要望などに耳を傾けながら表情、言葉遣い、態度などに注意し実践している。本人の望む生活、楽しみのある生活が出来るよう支援させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家庭訪問や契約時にご家族様としっかりとお話させていただき、不安に思っていることや困りごと、要望等をお聞きしサービス導入を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様からの聞き取りを重視し、ホーム内のサービスだけでなく、インフォーマルなサービスなども含め、必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣類たたみやモップがけ、シーツ交換や食事の盛り付け、後片付け、また畑作業等、利用者様と一緒に協力し合って取り組んでいる。やりがいを持って達成感や楽しみも分かち合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍で面会制限はあるが、本来は面会や外出・外泊はいつでも制限なく実施していただいている。面会の際には本人を交え様々な会話や世間話を通し良好な関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人様、ご家族様、ケアマネジャーよりこれまでの大切にしてきた人間関係や環境などを聞くようにしている。生家を訪ねたり、なじみのスーパーへ出かけたりしている。また、家族以外の方々の面会も多く、世間話を行ったり、畑で採れた野菜等を差し入れてくださる方もおられる。	コロナ禍であるが、少しずつ馴染みの場所への外出の機会を作っている。内灘海岸へのドライブや花見に紅葉ドライブ、金沢城や木場潟に行くなど、体調と天候をみて気分転換を図っている。夏には浴衣を着たり節分の豆まきなど、行事に合わせた催し物や行事食を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や得手不得手など把握し、お互い楽しく話し合える関係作りを大切に対応させていただいている。自らの関わりの大切さや利用者様同士の環境の大切さをスタッフに伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られてからも本人様への面会を行っている。ご家族様からも喜びの声をいただいている。また、長期入院にて退所となられた方のご家族様より退院後の相談をいただくこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	チームで本人の生活歴や習慣、得意なことや苦手なこと等の把握を行い、本人や家族の望む暮らしの実現ができるよう努めている。意思の疎通が難しくなってきた方には、表情や行動などから想いを汲み取り、本人目線でどういった環境が必要か話し合っている。	入居者との関わりの中から本人の思いや意向をくみ取っている。言葉にできない人には表情や行動から思いをくみ取るよう支援を行っている。本人目線でみえる環境を職員が考えることでその人らしい暮らしの継続につなげる姿勢がみられる。入居しても仕事をしたい人には過去の生活歴を聞くことでその人に合った無理なくできることを考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活習慣や近所との関係を把握させていたが、入居している。また介護サービス関係者とも情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体記録だけでなく、一人ひとりの状態確認が出来るよう個人記録を事細かに記入している。ドクターやナースの記録も確実にいき、少しの変化にも瞬時に対応できるようにしている。また記録をもとに利用者様の状態を見逃さないよう細かな申し送りを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見や要望をお聞きし、かかりつけ医やナースからもアドバイスをいただき、スタッフと話し合い計画作成を行っている。また、毎月のモニタリングをユニットミーティングで行いケアの振り返りや今後の対応等を実施している。	ミーティングの中で、本人の状況や自分たちが行っているケアの内容を確認し、担当職員、副主任、看護師が話し合い、ケアマネがプランを作成している。また、家族の希望や訪問診療医、訪問歯科医師から意見を聞くこともあり、チームケアを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録にてケア実施内容や様子の変化、気づきなどを事細かに記入している。記録をもとに日中夜間の申し送りを徹底し行っている。毎月のミーティング時には改善点などについて話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者様の状態や要望に対し、柔軟な考え方と対応を行うようチームで取り組んでいる。本人のための支援を考えチームで実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来、地域のお祭や文化祭、他施設交流に出かけている。近くの保育園へ向かい園児との交流も行ったりと活気ある暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医の継続か事業所担当医での往診かを本人様、ご家族様に確認し選んでいただいている。入居後の医師変更の申し出も対応している。	3人のホーム医があり、入居時に選んでもらっており、現在はほぼホーム医に変更しているが、これまでのかかりつけ医を継続することも可能である。また専門医受診が必要なこともあり、基本家族が対応するが、必要時はホーム職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の小さな変化や気づき、状態は確実にナースに報告するように徹底している。ナースとドクターとの連絡体制も整っており、必要な処置、受診等、速やかな対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院後の状態確認は詳細に実施している。病院訪問にて担当ナースやソーシャルワーカーとの連絡を密に取り、早期退院に繋がるよう行っている。また、ご家族様との連携、相談対応も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時は重度化した場合についてできる事について指針の説明を行い、同意を得るようにしている。看取りの対応も行っており、担当医に指導を受けながら努めている。看取り期になった場合には再度説明、意思確認の場を設け、ドクター、ナース、ご家族様を含め共通支援の方向を共有し確認し合っている。	入居時終末期についての説明を行い同意はいただいているが、看取りが必要になってきたときは看護師と相談し、主治医に伝え、家族を交えて、この事業所のできることを、できないことを適切に説明し、本人家族にとって一番良いことをチームで考える機会にしている。実際看取りになった時は十分に見守り介助を行い、その都度研修を行い職員の意識を高めている。またご本人を見送った後も反省会として自分たちの介護を振り返る機会を作るなど、入居者や家族のことを一番に考え、気持ちに寄り添う姿勢がみられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修を開催し、様々な対応訓練に努めている。消防訓練にて通報訓練、AEDの使い方などの指導を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急対応マニュアルや連絡網を作成している。ナースやかかりつけ医とも随時連絡がとれるようになっており、相談や指示も得られるようになっている。	緊急対応マニュアルや連絡網が完備されており、看護師やかかりつけ医への連絡も適宜とれるよう日頃から連携がとれている。また緊急時の訓練も行っており、離設時の研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	担当医とは連絡連携を密に取っており、24時間いつでも支援が得られる体制が確保されている。同グループ施設との交流も行っており、状態に応じて様々な相談が行えている。	ホーム医には24時間連絡がとれる関係であり、法人内でも必要時は助け合うよう日頃から申し合わせている。また、病院を退院しホームに入所する入居者についても病院との連携が図れており、不安なく入居者が過ごせるよう、法人内の体制が整えられている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット毎に1名の計2名を配置している。ナースとは随時連絡がとれる体制となっている。また、管理者やリーダーは緊急時にすぐに対応出来るよう心構えを持っている。	夜間は2ユニット1名ずつの夜勤職員配置になっているが、必要時は連携し対応していくことは職員間で周知されており、近所に住む看護師、ホーム医への連絡はオンコールでつながっている。必要時は管理者、ケアマネ、主任等への連絡も行っており、緊急時の対応については日頃から研修を行っている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練、災害時対応研修を行い、適切に対応出来るようにしている。運営推進会議で訓練時の協力をお願いしており、参加もしていただいている。	災害時のマニュアルが完備されており、年間2回の訓練は行っており、今年度は日中火災想定で避難訓練を行った。1回は消防の立合いもあり、災害対策への意識もみられる。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時対応マニュアルや緊急連絡網を作成している。避難先で困らないよう緊急連絡先や医療情報等や薬などの持ち出し袋を整備している。	2階倉庫に備蓄品があり、乾パン、ご飯、水などを完備している。医薬品やおむつ類、寝具はホームにあり、非常時にすぐ持ち出せるよう個人情報や薬剤情報の更新を行っている。また、賞味期限も把握しており定期的に入れ替えも行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内接遇研修に参加し、利用者様への言葉のかけ方や対応方法を学んだ後、自施設にて研修を開催し全スタッフへフィードバックを行っている。また、自らの言動行動を振り返る自己評価を定期的に行っており、ケアにつなげている。	社内接遇研修に参加しており、自己評価を定期的に行い、職員の意識改革や介護技術向上に努めている。日頃のケアでは、介助時は居室のドアを閉めプライバシーを確保することや申し送り時の個人情報には気を配るなど、基本を忠実に実行し、日々の介護がなれ合いにならないよう、個人の尊厳について意識がいくように職員間で話し合う機会を持っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや気持ちを聞けるよう、常に傾聴を意識してその方に合わせ関わらせていただいている。何を行いたいのか、何を食べたいか、何を着たいかなど本人が自己決定できるような会話を出来るようスタッフへ周知働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフには職員本位ではなく、利用者様本位での関わりが大切であることを伝えている。関わりの中から本人の希望をお聞きし本人に添って一緒に取り組み、本人の希望の望む暮らしや生活の中でのやりがいの実現を行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容に来ていただき、整髪を行っていただいている。時にはスタッフによるメイクやネイルなども行い、本人と一緒に買い物に出かけたり好みの衣類を選んだりして楽しんでいただけるよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、配膳下膳、食器洗いや食器拭きなど、出来ることは一緒にしている。畑で採れた野菜での料理も楽しみとしており、おやつ作りを一緒にすることも楽しみの一つとなっている。	入居者に食事の盛り付けや皮むきなどの下ごしらえ、炒めるなどの調理を行ってもらうこともあり、食器洗いを手伝ってくれる方もおり、この場所で生活していく意識が高い。食材が届いてから調理を一緒に考え、時にはもらい物や収穫したキュウリやトマト、スイカやイチゴも調理に彩を添えている。手作りのおやつも提供しており、コロナ禍で外出や外食がままならない入居者のためにできることを常に考える姿勢がみられる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の管理は三測表にて詳細に記録している。本人、ご家族様からこれまでの食習慣の聞き取りを実施し、栄養バランスを考えながらも、お1人1人に合った食事提供をさせていただいている。好みに合わせ緑茶や紅茶、ココア、コーヒーなどの提供など飽きのこない水分摂取をし支援している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。歯ブラシを使用出来る方には声かけし使用していただき、介助を必要とされる方には口腔スポンジの使用や口腔ガーゼでの拭き取り、義歯の方には夕食後に義歯洗浄剤等を使用している。毎月、歯科医もしくは衛生士による研修を受け、口腔衛生の大切さを学ばせている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的な訴えない方でも排泄パターンの把握に努め、定期的なトイレでの排泄支援を行っている。利用者様の状態に応じて出来る限り紙オムツではなく紙パンツを使用していただき、トイレでの排泄を目標とし本人の残存機能を引き出すよう支援している。	排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄の確認を行っている。無理せず負担なく尊厳にも配慮しながら声かけを行い、清潔保持、健康管理に努めている。リハビリパットから布パンツに変更する取り組みも行っているが、すべての人を布パンツにと考えるのではなく、その人に合った方法を職員間で検討し提案していく姿勢がみられ、入居者のことを一番に考える姿勢が感じられる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や軽体操、散歩や運動レクリエーションを行ったりし、体を動かす機会を多く取り入れている。また、ヨーグルトやヤクルト等の乳製品を摂取していただき、便秘予防対策も行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や状態に応じて対応させていただいている。入浴を拒む方には気の合う利用者様との入浴や特別湯などで気持ちよく入っていただけるようその方に合わせ対応している。柚子湯や菖蒲湯等で季節を感じてもらえるような工夫も行っている。	週2回の入浴支援を基本とし、必要時には回数を増やすことや拒否のある人には根気よく本人の思いをくみとる支援を行っている。柚子湯やしょうぶ湯、ヒノキの湯を提供したり、入浴剤に対応し、気持ちよく入ってもらえるよう気を配っている。また同性介助の希望にも寄り添い、職員の配置や時間帯を調整している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息など今までの生活習慣を大きく変化させることのないように利用者様本位で行っている。日中はレクリエーション等を楽しんでいただき、夜はゆっくり休んでいただけよう活動している。また、夜は少し電気の明るさを落とし、昼夜の変化を感じれるように支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターより薬の目的、薬剤師より用法や用量、副作用などをお聞きし、スタッフ間にて情報共有、申し送りしている。また、ナースより全体的な再説明の実施と申し送りノートへの記載も行いスタッフに周知している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や家事作業、草むしり等の継続にて役割を果たすことの喜びに繋がるよう支援している。利用者様一人ひとりの楽しみや趣味の支援をさせていただいている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩に出かけたり、外食や買い物、ピクニックに出かけたりしている。またドライブにも出かけ気分転換もしていただいている。 ご家族との情報共有にて、役割分担など行いながら楽しんでいただけるよう努めている。	コロナ禍であり、外食や買い物支援を基本制限している。しかし入居者の希望、体調、気分、家族の意見、職員体制などいろいろなことを考えたくうえで、制限だけではなく、気分転換の方法を模索していく姿勢がみられる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の際には本人様に財布を持っていただき、一緒にレジに並ぶようにしている。出来る限り本人の能力を引き出せるような声掛け対応を行い、必要最小限の援助を行っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時にご家族様へ本人様の希望時に電話をかけさせていただけるようお伝えし、協力依頼をさせていただいている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や換気、温度調節や温度管理を行っている。またフロアには季節を感じていただけるよう飾りつけや壁画を飾らせて頂いている。必要であればフロア内の配置替えなども行い、利用者様が出来る限り快適な生活を送ることが出来るよう心がけている。	どの入居者も居心地よく過ごすことができるよう、掃除や換気、温度調整を行っており、季節を感じてもらえるよう飾りつけや壁画を工夫している。懐メロを聞いてもらい、音を思い出してもらうことや家具などで怪我しないようクッション材をつけるなど、細かな配慮をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアで過ごされる時間はお一人お一人の生活に応じて自由に選んで過ごしていただいている。気の合う利用者様同士で居室で話されたり、お茶をされたりする事も見られ、環境づくりの工夫をしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご自宅で使っていた馴染みのある物を持ってきていただいている。 長年使っていた椅子や棚、亡夫の仏壇やご家族様の写真等、利用者様の大切な思い出と一緒に、居心地良く過ごせるよう工夫している。	タンス、ベッド、エアコン、カーテンは常設されており、入居時には馴染みの物をもってきてもらうよう説明している。テレビ、タンス、ハンドバッグ、絨毯やテーブルを持ってこられる入居者もいる。冷蔵庫や携帯電話なども持ち込み可能であり、衣替えは基本家族に衣類をもってきてもらい職員がこれまでの衣類を家族に返すようにしている。「家族と本人のかかわりが減らないようにという気遣いからの配慮です」と聞き取れた。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前プレートを設置してご自分の居室がわかるよう工夫している。名前の確認が難しい方には花や飾り物等で区別できるように環境の工夫を行っている。		